

図の上部には、次の文がある。

薪水

➡「イなり」まやのおまへもおいらも
めでたくざかしらになつたからいち
ばん「ひるきさまおちから」にてん
「ぼの皮でやつてみやう」の

➡くび引どちらもおとらぬ花形の
ざがしら薪水丈ハ上方の「しゆ行
のちから芝翫丈ハひるきといふ
力ありていづれもしやうぶなし

「イキ

➡「サアあかし

さんもと」

なかさんもお

きんもきし

おくれなり」

やさんがおとや

にまけるといけないから

家橋

➡「田の太夫さしづめおまへとおいら
だがいちばんやろつか 田」しかし
太夫元をまかしてもすまね入から
よしに「やつか 家」さしづめくび引
をするのにおまへのやうに「いも
でんでくびをさられちやまたまら
ね」

小團次

➡「わかつてへがくびんきをするのに見
てもぬられまいしかし江戸に世のおいら
のあいてがね入から上かたまでおまへを
よびにやつたのさ ➡「わたしも上かたへのぼ
つてのり」に「いり」ついであつたが「おめ
しん」
しげぬきはたいたから「いも」で
き
ついで「いも」は「いも」に「やま」かな

うまい

権十

♪ ヲイはりまやのおまへハなりニま
やのかさじやアか

きだしがふそくで中

ちくへでたトいふことだがあ所なんぞに
きをもまずとふたいをほねを

おつたがよかろうおゐらハかき

出しおまへハ中ぢく一ばんカ

くらべをやらかそう 市 ♪ ヲツナ

所でたしなませるぜしかし

おやぢのぜにをかきにきて

ひとりできやうげんをしたがる

のよりやアおいらのほうがつミハねハ

きく二郎 ♪ ヲイ大和やの太夫さん男の

中へはいつて女子だてらにお「かましいが一ばんくび引の

中□□□はいろいろじやアないか くさめ ♪ はいることハはいるけれどモ

□□おまへのあしもとへもむづかしいからたきのや

□□ふたりがへりでいかり しんしゃ ♪ やまとやの

太夫ハこのせつハ玉女がたるぎけたから

ぐうしてもちからハあるまいしかし

おとハやのにあさひなへんけいのゆう

ありともおのれニうめいがこつにくこ

わけいり「れじやとんだかんきのよふだ

つゐぬう ♪ サアどうだかミがたやくしやの

ひとりやふたり三丁まちをくそたらけに

してかかつた

つて水道の

水でおしろい

をつけ習つた江戸ッ子にはかたつものかしかし

いろをするのじやひなさんにやアかなうまい

ひなすけ ♪ あんまりいろのしついでまけちやア

ぎりがわるかろうつゐすけなへんしつかりして

くんねへふたりがへりてまけるといふのハ

じつになまけねしつだのつゐすけ ♪ その

かハリこんど二口でいしゆをかへしてやろう

ふくすけ ヲイ八百さんまづこかいめかで

なだいにおなりのハめでたいさるが人

まね

でいち

ばん

やらかさう 八百 ヲおまへハわし

より男もよしぶたいも

たつしやだがなまい

にたいしておまへ

にやアまけられ

ないト兩人いど

ミしがなか

ふくすけにおよびがたく

中東せう いろいろめきたり

訥升 ヲイ三津さんだん 〱ばん

くミもすんでおまへとわたしばかりに

なつたが正じん正めいまがいなしの

江戸ッ子ぞろいおまへもいちじにこしゆつせで

とうじハ三丁目のかきだしせけんひやうばんよく

ことにぶたいがおほようだからだにくわんめがついたらバ

あバたまで見へなくなつたさてむだぐちハこんど

のつぎサア 〱いちばんやらかさう

ミツ ヲとうして 〱おまへハさんがのつをまた

にかけてしゆぎやうのつんだ人いつれも

さまのおほしめしもいかどなれバ

こめん

〱や

にげて

ゆ

團のすけ ヲサアこれからハ

とうじいろしのげんぢう

ろつさんよるくさんが

古人になつてわたしの

さわぎあいてが

なくなつたからこれ

からハおまへがあい
ていくらからだがおほ
きくてもうでづくじやア
まけやアしないしたく
がよくバおいでく

〔現〕十郎 ♪わたしのあいてにハ十蔵なら
せいくらべでもするのだがおまへ
じやアそれもできずしかし

しやがんでいつミシヤアとと ▶▶

▼あせだらくくにいどんこ
がなにおふだんのすけ
のさわぎにてきたい
がたくついにかぶとをぬきけり

吉六

♪サア鷹太夫さんまじ

おほづめがぬしとほくそ
ぬしもきよねんいらいあい
ちうのくわんたるものになつて
としまぼれがするそうだがいろ
のほうじやアおよびもねんが
かぎやうづくのくび引をせずハ

なるめハ雁ハ ♪おんなにほれらわれぬハ
にやうほうきをぬぬちやうなやががどんきんハ ▶

からおんなハほれらわれぬハ

ほうがいハしかしおほとまきの
ほうくわんすしハぬしにおお
んずともげんじうならんお
でなせハありあめさしてぬん
つなぎつけしばんばくじうん
あいたりけり

予あるときしかくハ

ゆめミたりこじう

ありしきをへんじうにかたりてあつちやん
たんじちのたわ

むれにがくやのあなにも

あらざりしよしなき

ことをしるすになん

暗見堂主人誌

